

2019年度計画

下記日程には一部予定を含みます。

3月	【3月13日(水)】2019年度事業計画説明会開催(企業・団体向け) 大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会の事業計画説明
4月	【上旬】受入依頼状等を企業・団体に発送 インターンシップ研修生受入の可否及び インターンシップ受入プログラム合同説明会参加の有無について照会 【4月19日(金)】受入可否・合同説明会参加可否回答締切 上記案内書類(アンケート等)の回答締め切り
6月	【6月1日(土)】合同説明会開催(9:30-15:30) 【6月26日(水)～7月5日(金)】企業・団体の学生面接 学生の研修希望先での面接
7月	【7月初旬】各大学から企業・団体へインターンシップ研修申込書発送
8-9月	インターンシップ研修
9月	【上旬】研修先企業・団体にアンケート送付
11月	【下旬】拡大懇談会開催



インターンシップ・ プログラム 実施報告書

Internship Program Report 2018

各大学インターンシップ連絡先

2019年度
事務担当校

愛媛大学

教育学生支援部就職支援課
(担当/山根)

〒790-8577 松山市文京町3番
TEL 089-927-9164(直)
FAX 089-927-9181
www.ehime-u.ac.jp/

松山大学

教務部教務課
(担当/高橋・佐藤)

〒790-8578 松山市文京町4-2
TEL 089-926-7137(直)
FAX 089-923-8920
www.matsuyama-u.ac.jp/

松山東雲女子大学 松山東雲短期大学

キャリア支援課
(担当/一楽)

〒790-8531 松山市桑原3丁目2-1
TEL 089-913-2610(直)
FAX 089-931-6402
www.shinonome.ac.jp/

聖カタリナ大学

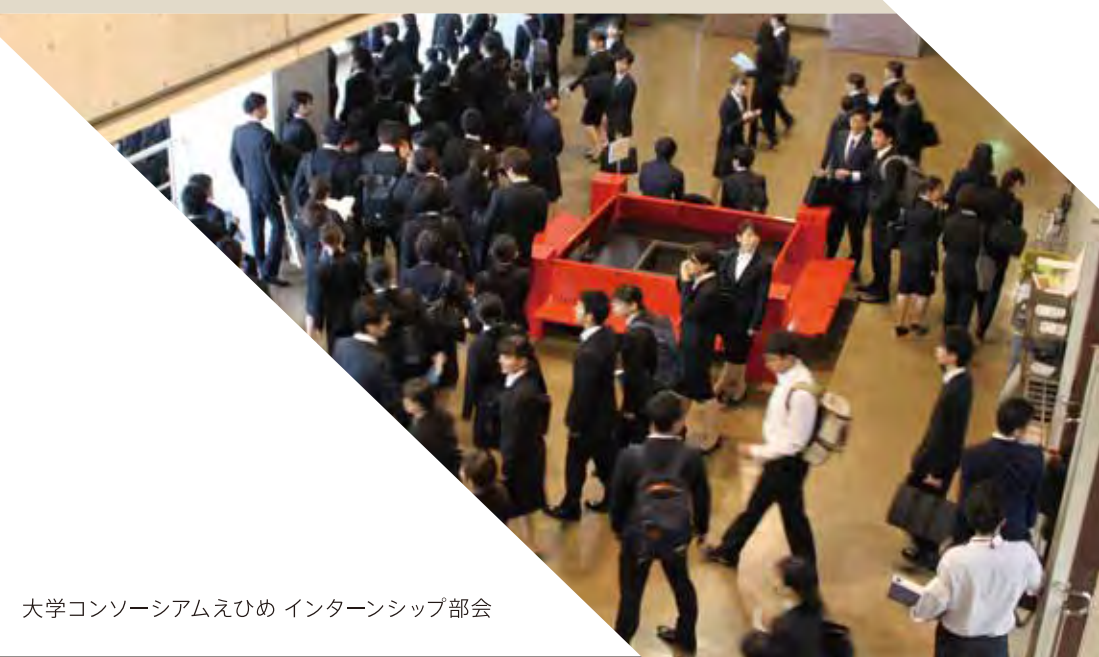
学生部就職課
(担当/蔵前)

〒799-2496 松山市北条660
TEL 089-993-0731(直)
FAX 089-993-0717
www.catherine.ac.jp/

編集・発行/大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会

制作 / NPO法人えひめ中小企業支援協会

〒791-0003 松山市三番町1丁目11-10 ISSEIビル301 tel.089-948-9920 fax.089-948-9931



大学コンソーシアムえひめ インターンシップ部会

ごあいさつ

2018年度のインターンシップ研修実施のお礼および 来年度以降の取組へのご協力をお願い

大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会 2018年度部会長 **長尾 由希子**
(聖カタリナ大学就職委員長・聖カタリナ大学インターンシップ部会長)

地域の企業・団体のみなさまにおかれましては、平素より大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会の活動に、多大なご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

2018年度は、過去最多となる105事業所の企業・団体さまに、愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学・聖カタリナ大学から461名の学生を受け入れていただき、無事にインターンシップ研修を終えることができました。

学生を受け入れてくださった企業・団体さまには、学生へのあたたかいご指導をいただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。おかげさまで、アンケート結果からは、多くの学生が満足し成長の実感を得たこと、受け入れてくださった企業・団体さまにも、概ねご満足いただけたことが伝わってまいりました。いただきましたご意見やご提案は、大学関係者で真摯に受け止め、改善に努めていく所存です。

また、残念ながら、2018年度は自然災害による被害を受けた企業・団体さま、学生も見受けられました。この場を借りてお悔やみを申し上げます。自然の厳しさを知ると同時に、地域を支えているのは「人」であることを改めて実感することとなりました。今後とも、インターンシップ研修を通して、企業・団体さまと大学関係者で、将来の地域社会を担う学生を育てる取組みを大切にしていきたいと感じました。

なお、本部会はインターンシップ研修以外にも、拡大懇談会(2018年度は12月開催)や事業説明会(例年3月開催)などの場を設けまして、企業・団体さまと大学関係者の交流・意見交換にも努めております。ご多用とは存じますが、こうした企画にもぜひご参加ください。

コンソーシアムえひめインターンシップ部会では、次年度以降も企業・団体さま、学生側双方にとって有意義なインターンシップ研修となるよう、さらなる質の向上に努めてまいりたいと存じます。引き続き、ご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

これまでの経緯



1990年代初頭にバブル経済が崩壊して以後、「失われた10年」はこれまでの日本型システムの多くを変容させ、特にその当時、新卒学生の就職状況が悪化する中で、フリーターやニートといった若者雇用問題が大きな社会問題となっていました。

そのような中、1997年9月、当時の文部省・通商産業省・労働省の三省は合同で「インターンシップの推進に当たっての基本的な考

え方」を発表しました。在学中に就業体験を行うというこれまでの学校教育にはない新しい取り組みが政策レベルで模索され始め、今日では多くの高等教育機関でその実践が展開されています。

愛媛県内の高等教育機関でも独自にインターンシップを教育課程に取り入れてきましたが、無差別な受入要請が地域におけるマッチング秩序を混乱させるという事態が発生しました。2003年、受入先等の要望もあり、愛媛県中小企業家同友会の協力を得て、県内4大学(愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学)が中心となり地域における大学生のインターンシップを統一的に運営するため、「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」が設立されました。

2009年には、愛媛県内で大学コンソーシアムができ、「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」は「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」へと移行しました。しかし、設立当初からの目的や地域の各組織との連携関係を変えることなく、2013年度からは聖カタリナ大学も加え、5大学で発展的に事業を展開しています。

インターンシップへの取り組み

愛媛大学

国立大学は、6年ごとに中期目標を定め、その取組を行っています。法人化以後、現在は「第三期中期目標期間」にあり、2016年度よりその期間が開始されています。愛媛大学は、「輝く個性で地域を動かし世界とつながる大学を創造すること」をVisionとしています。

大学の戦略として、特に重視されているのが「地域の持続的発展を支える人材育成の推進」です。具体的には「卒業生の愛媛県内就職率アップ」「愛媛大学版汎用的能力の習得率アップ」「卒業生に対する企業等の評価アップ」を掲げ、着実にその成果を積み上げています。

2003年の愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会によるインターンシップが始まって以後、インターンシップは学内で社会へと移行する学生の成長を支える重要な教育活動として位置づけられてきました。年々学生の参加人数は増加し、これまで累積で2200人ほどの学生にコンソーシアムえひめによるインターンシップを経験してもらったこととなりますが、「第三期中期目標期間」では、学内でのインターンシップの重要性がさらに増えています。

愛媛大学は、2016年度、地域の課題を解決するための人材を育成する「社会共創学部」を設置しました。社会共創学部では、トランスディシプリナリーの理念の下、多彩なカリキュラムが用意されますが、社会共創学部の学生のほとんどが就労体験(インターンシップ)を行います。また、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」の採択により、地域に貢献できる人材を育成するため取り組みが全学で行われてい

松山大学

松山大学におけるインターンシップの取り組みは、経営学部において1995年に学生自らが研修受け入れ先と受け入れ交渉を行い、職場研修を行う方式により開始されました。また、経済学部では1998年に愛媛県中小企業家同友会と西四国観光ネットワーク「るーらるぼけっと」の会員企業を中心とした研修受け入れ先に学生を派遣し職場研修を行う方式により開始され、その後制度が統合され、2002年度からは文系学部すべてで実施される全学部共通のプログラムになりました。

さらに、これまでは「共通教育科目」の1つであったインターンシップ関係科目が、2012年度からは独立した「キャリア教育科目」として位置づけられ、大学の教育活動の中で、ますます重要なものとなっています。

本学のプログラムは、前期に事前講義として「インターンシップ活用Ⅰ」(全15回の講義)、夏季休暇期間を利用した「インターンシップ研修」(実働30時間以上、もしくは実働60時間以上の実務研修)、さらに後期に事後講義として「インターンシップ活用Ⅱ」(全15回の講義)という形で実施しております。

松山大学では、2018年度、177名の学生が「インターンシップ研修」を行いました。毎年、研修を受けた学生の代表による研修報告会を開催するとともに、各受け入れ先の研修報告を冊子にまとめています。このような教育活動が可能となっているのも、ひとえに研修生を受け入れてくださる事業所・団体があったからこそであります。インターンシップにご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げますとともに、今後の変わらぬご支援をお願いいたします。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

本学では、2003年度より女子大学および短期大学でキャリアサポートセンターを中心にインターンシップ研修を進めて参りました。現在はキャリア支援課において、インターンシップ研修や低学年からのキャリア教育、就職活動に至るまで一貫して支援を行う態勢を整えております。2012年度から2014年度まで取り組んだ文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」では、卒業生や愛媛県内企業等を対象とした産業界ニーズに応える“汎用的能力”に関するアンケートや在学生・卒業生の実態調査を実施いたしました。それらの結果を踏まえ、学生の主体性や課題発見力強化のため様々なキャリア支援プログラムに挑戦しています。

また、教育課程内においてもキャリア教育の取組を行っています。女子大学では、様々な社会人を講師に招き、職業について考える「キャリア論」や「ビジネスコミュニケーション」などの科目を配置し、1年次からインターンシップ研修やPBLを取り入れ初年次教育を強化しました。短期大学では、従来より職業に直結する教育を展開して参りました。中でも現代ビジネス学科では、1年次からインターンシップ研修を含む多様なビジネス体験を取り入れた科目を設置し、ビジネス社会に必要な知識・技能の習得を目指した体系的なカリキュラムを展開しています。

このように女子大学・短期大学ともに、全学を挙げてインターンシップ研修に取り組み、事前・事後指導の拡充に努めております。学内で開催されましたインターンシップ報告会は受入企業・団体様にもお越しいただき、学生の“気づきや振り返り”をサポートして頂いています。自分自身と向き合い、社会人としての責任の重さを痛感したインターンシップ研修の学びが、さらに深まる大変有意義な機会となりました。受入企業・団体の皆様におかれましては、引き続き“働くことの意味・やりがい”などについてもご指導賜り、今後とも主体的に考え行動できる学生の育成に変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

聖カタリナ大学

聖カタリナ大学は、2013年度より大学コンソーシアムえひめのインターンシップ・プログラムに正式に参加させていただいております。本年度(2018年度)で人間社会学科は6年目、社会福祉学科は3年目を迎えました。2019年度は、引き続き両学科が参加させていただきます。

本学では、就職課を中心とした様々なプログラムに加え、正課科目においてインターンシップ研修のための事前指導を行い、学生が社会人として求められる知識やビジネスマナーを習得できるよう、支援を行っています。具体的な授業内容としては、学科担当教員によるキャリア意識の形成や職業観に関する講義・指導、外部講師によるマナー講習など、就職活動を意識した講義やワークを行っています。本学の支援の特徴は、小規模校の強みを活かした、学科教員による“顔の見える”個別指導にあります。研修後には、各自の学びを『インターンシップ研修報告書』として冊子にまとめるとともに、後学期に研修報告会を開催して、成果の共有と振り返り、学科教員からの指導を行っています。

本年度は、2学科で47名(32事業所)をインターンシップ研修に送り出すことができました。参加学生は、研修を通じて職場で働くことの厳しさや責任の重さ、自身の甘さを実感したり、他大学の学生から刺激を受けたりしながら、大きく成長することができました。それぞれが就職活動を行い社会に出ていくにあたって、自らの課題や方向性について考える貴重な機会となりました。学生を受け入れて下さった企業・事業所のみなさまには心より御礼申し上げます。

2018年度は、聖カタリナ大学が幹事校を務めさせていただきました。格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございます。

2018年度 インターンシップ研修報告

今年度も県内5大学に在籍するたくさんの学生が参加し、インターンシップ研修が行われました。
受け入れ企業向けの事業計画説明会を始め、年間を通じた研修事業の状況をご報告いたします。

▶ 事業計画説明会

受入を検討されている53の企業・団体等にご参加いただき、事業の方針やプログラムを説明。その後は大学関係者も加わり「自社の現状についての確認と新しいアイデアの採用について」と題して、ワークショップを開催しました。インターンシップに関する問題点を洗い出しその情報を共有しつつ、よりよいインターンシップ研修づくりに向け討議しました。

▶ 合同説明会

愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学、聖カタリナ大学に在籍する540名の学生が参加。早々に満席となり、立って話を聞く学生が出るほどの盛況ぶりでした。その後は、参加企業や団体のプレゼンテーションを聞き、個別面談ブースをまわって研修内容の説明を受けたり、様々な質問をしたり、活発に活動していました。

▶ 拡大懇談会

その年のインターンシップ事業を総括するため、毎年この時期に開催しています。今回は、研修生を受け入れていただいた企業から4名の研修経験のある若手社員の方々にご参加いただき「学生時代のインターンシップの意義等について」と題して報告会を実施。その後、研修生を受け入れていただいた32の企業・団体のご担当者とともに、報告会の内容を共有し、今後の研修プログラムに役立てていくことになりました。

3月7日 水

4月
【下旬】

インターンシップ受入プログラム合同説明会への参加の有無とインターンシップ研修生受入プログラム内容に関するアンケート送付

5月
【上旬】

アンケート等の締め切り

6月2日 土

7月
【上旬】

各大学から学生の研修申込書を研修希望先へ送付

7月
【中旬】

研修希望先での面接

8月~9月

インターンシップ研修
(5大学合計461名が
105の企業・団体で研修を受ける)

9月
【下旬】

インターンシップ研修生
受入企業へのアンケート
(回収数103/配付数131)

12月11日 火

愛媛大学

法文学部 人文社会学科 やまね かこ
法学・政策学履修コース 3年 山根 佳子

研修先 愛媛県警察本部

私がインターンシップに参加した動機は2点あります。まず1点目に、周囲の話や文献から得る知識のみでなく、実際の働く現場を目で見て肌で感じてみたいと思ったこと、2点目に、就職活動や実際に就職するまでに習得しておくべきことや、自分に足りないものは何かを把握しておきたいということです。

今回の研修では、各部署の見学や体験が多く、警察官という仕事を肌で感じる事が出来ました。警察官は他の公務員とは違う強い権限を与えられているため、その分責任もあり厳しい職場だと考えていましたが、その中でも職場の雰囲気は活気があり、団結することで、個々の能力を補い合い、組織として機能していることに気づかされました。

5日間の研修の中で、特に印象に残ったのは「確かに仕事は大変なこともあるけれど、その分やりがいも大きいし、何よりこの仕事が好きだから頑張れる」という職員の方の言葉で、今から選択肢を絞るのではなく、進路について今一度、じっくり考えてみたいと思いました。

「好き」を仕事にできるような働き方をするために、自分の「好き」を探し、磨くこと、多くの人と関わりを持ち、視野を広げることが必要だと感じたため、今後意識して大学生活を過ごしていきたいです。

松山大学

経営学部 はまにし ゆうすけ
経営学科 3年 濱西 佑典

研修先 SMBC日興証券株式会社

私は今回のインターンシップに参加して様々なことを学びました。最初、5日間のインターンシップは長いのではと感じていましたが、実際に経験してみると5日間はあっという間であり、私にとってとても貴重な体験になりました。私にとっても貴重な体験は3つあります。1つ目はインターンシップに参加するまでは金融や証券会社について詳しく知りませんでしたが、座学を通して、それらについて学ぶことができたことです。私は今回のインターンシップを通してより一層金融業界に興味を持つことができ、学生のうちに金融に関する知識や資格を身に付けていきたいと考えています。2つ目は新聞の読み合わせです。私は新聞を時々読む程度であり、習慣づけ新聞を読むことはあまりありませんでした。しかし、新聞の読み合わせを通して、新聞を読むことは自分のためになることがわかりました。私は新聞を今後も読んでいき、政治や企業についての知識を身に付けていきたいと思っています。3つ目はグループワークやグループディスカッションです。私はインターンシップ中に社会人スキルを身に付けるためには、さまざまな人と積極的にいかかわっていき、自分自身を鍛えていく必要があることがわかりました。社会人スキルの1つであるコミュニケーション能力も同じであり、様々な人と積極的に話していく必要があるということです。私はこれを糧にしてグループワーク等に取り組み、積極的に参加しました。その結果、人前で話すことを少し克服することができ、コミュニケーション能力の向上にもつながったと思います。

私は今回の経験を生かして今後の就職活動にも役立てていきたいと思っています。

松山東雲女子大学

人文科学部 みやうち わかな
心理子ども学科 1年 宮内 和花奈

研修先 株式会社 松山全日空ホテル

私がインターンシップ研修に参加した目的は、3年後の就職活動に向けて、今の自分に足りないものを見つけ、大学在学中に克服しておきたいと考えたからです。今回の松山全日空ホテル様での研修では、宿泊部門・宴会部門・料飲部門を体験させていただきました。その中で、私は今後以下の二つのことを補うべきだと感じました。それは柔軟性と挨拶です。

宴会や食事会などの一日の流れは従業員のほとんどの方が把握し、各部門が連携されています。お客様の急なご要望にも動くことなく臨機応変に対応している姿を拝見して、柔軟性が大切だと感じました。また、され松山全日空ホテル様では社内での挨拶をしっかりするという基本的なことを大切にされているからこそ、各部門間の繋がりが強く働きやすい職場になっていると感じました。お客様への挨拶はもちろん、社内での挨拶の重要性にも気づくことが出来ました。

これからの大学生活では、柔軟性と挨拶の意識力を高めるために、あらゆる視点から物事を見る練習を行ったり、日常生活でも挨拶をする癖がつくように努力していきたいと思っています。インターンシップは学内での授業とは違った学びがあり、その学びは確実に就職活動に生かされると思うので、また来年も参加しようと思います。

松山東雲短期大学

現代ビジネス学科 さいき みゆ
1年 佐伯 美侑

研修先 医療法人財団尚温会
伊予病院

研修前はとても不安でしたが、実際は楽しみながら一生懸命取り組むことができました。幅広く多くの業務を体験させていただきとても充実していました。

私は今回の研修でコミュニケーションをとることの大切さと、効率よく物事に取り組むことの大切さを学びました。病院内できちんと連携を図るためには医師、看護師、介護士や事務員との間で報告・連絡・相談が必要となります。その際に、的確にコミュニケーションをとることが大切であることを学びました。様々な人と関わることのできる学生生活では、多くの人と積極的にコミュニケーションをとり、そこからさらに学びを吸収していきたいです。また、事務の進行状況に合わせて効率よく仕事に取り組まれる姿に刺激を受けました。事務での処理ができていないと病院全体の仕事が回らないため、限られた時間の中で事務処理を行わなければなりません。私は普段、期限までに終わらせればよいという考えで物事に取り組んでいました。これからは、計画を立てて手際よく正確に物事に取り組むように変えていきたいです。そして、働くことに関しての意欲が湧いてきたので前向きな気持ちで知識や経験を増やし、未来の自分探しをしていきたいです。

聖カタリナ大学

人間健康福祉学部 たかいち しおり
人間社会学科 3年 高市 詩央里

研修先 シンヤ精機株式会社

私がインターンシップ研修に参加した目的として、以下の3つが挙げられます。第一には、研修を通じて興味のある製造業の現場を体感し、とりわけ事務職の役割を理解することです。第二に、来年から就職活動始めるにあたり、自分の適性について知ることです。そして第三に、社員の方々の業務を間近で拝見することで、今の自分に不足していることを自覚することです。

研修では、人事や広報にかかわる業務に従事させていただきました。具体的には、パソコンでの処理、説明会の会場づくり、郵送物の宛名書きなどで、実際に働くことで業務内容を知ることができました。落ち着いて確実に業務を行うことで、ミスを減らすことができることを学びました。

特に印象に残ったこととして、3日目の午後に、社長に質問をさせていただく機会があり、その時にインターンシップ生の質問項目をまとめることを任せていただきました。質問内容や言葉づかいや適切に整理することの難しさを実感しました。また伝える相手が多ければ多いほど、正確に伝えることは難しく、言語だけでなく周囲への気遣いの大切さを学ぶことができました。こうしたことはこれからの仕事や生活につながることであり、今後の自分の成長に役立つと思います。

▶ 参加者の声

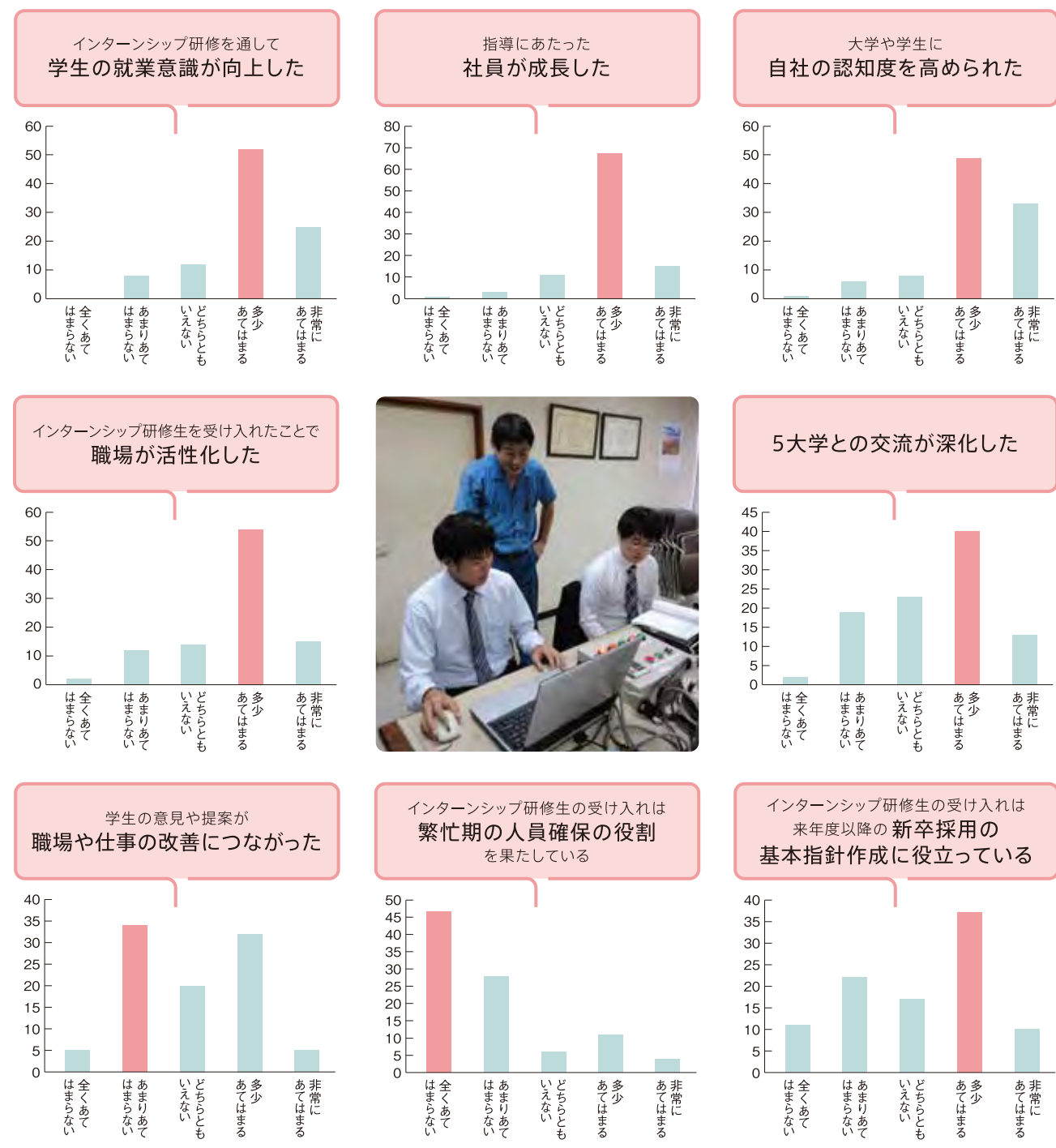
研修生受け入れ企業担当者 アンケート集計結果から

今後のインターンシッププログラムをより良くしていくため、今年度に参加していただいた131の企業・団体のご担当者に対して研修が終了した2018年9月にアンケートを実施。そのうち103社から回答を得ました。

インターンシップ研修生を受け入れていただき、得られた効果としては「学生の就業意識が向上した」「指導にあたった社員が成長した」「大学や学生に自社の認知度を高められた」など、本事業の主旨をご理解いただきつつ、受け入れが組織の活性化やPRにも貢献していると、8割方企業・団体の皆様に感じていただいております。

反面、「学生の意見や提案が仕事の改善につながった」点については明確な傾向が見えず、学生のスキルによって差が生じていることがうかがえます。また、「繁忙期の人員確保の役割を果たしている」が「全く当てはまらない」とする回答の多さと「(受け入れが)新卒採用の指針作成に役立っている」が「多少あてはまる」とする回答の多さから、企業・団体のみなさまが、学生や若手の指導育成という観点で取り組んでくださっていることがわかります。

今年度、研修生を受け入れていただいた企業・団体の大部分がそのメリットを感じていただき、今後も継続して受け入れる意向を示していただいたことは、本事業への理解が進み、定着しつつあると考えております。



受入企業・団体一覧（順不同）

1	株式会社アール・シー・フードバック	54	聖カタリナ大学
2	株式会社アイクコーポレーション	55	株式会社セブンスター
3	あけはまシーサイドサンパーク株式会社	56	全国「道の駅」連絡会
4	株式会社ありがとうサービス	57	損害保険ジャパン日本興亜株式会社
5	社会医療法人石川記念会 HITO病院	58	株式会社大屋(ドラッグストアmac)
6	泉製紙株式会社	59	太陽石油株式会社四国事業所
7	NPO法人 今治しまなみスポーツクラブ	60	高須賀緑地建設株式会社
8	今治市役所	61	田中商事株式会社(スペース田中)
9	NPO法人 いよコロザシ大学	62	株式会社中予精工
10	伊予市役所	63	DCMダイキ株式会社
11	イヨスイ株式会社	64	株式会社テレビ愛媛
12	伊予鉄グループ	65	東温市役所
13	株式会社伊予鉄高島屋	66	東京海上日動火災保険株式会社
14	医療法人財団尚温会 伊予病院	67	東京第一ホテル松山 八紘開発株式会社
15	株式会社ヴァンサンカン	68	トヨタL&F西四国株式会社
16	株式会社内子フレッシュパークからり	69	トヨタカラー愛媛株式会社
17	宇和島市役所	70	株式会社トヨタレンタリース西四国
18	エスエスオート株式会社	71	南海放送株式会社
19	SMBC日興証券株式会社	72	新居浜市役所
20	特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク	73	株式会社日本エイジェント
21	愛媛県警察本部	74	ニンジニアネットワーク株式会社
22	愛媛県総務部人事課	75	ネットヨタ南国株式会社
23	愛媛県立とべ動物園(指定管理者:公益財団法人愛媛県動物園協会)	76	濱田農園
24	株式会社愛媛CATV	77	株式会社ビージョイ
25	国立大学法人 愛媛大学	78	株式会社ヒカリ
26	愛媛トヨタ自動車株式会社	79	株式会社ビスタワークス研究所
27	愛媛トヨペット株式会社	80	特定非営利活動法人 ぶうしすてむ
28	愛媛労働局	81	株式会社フェローシステム
29	株式会社エフエム愛媛	82	社会福祉法人 福角会
30	有限会社遠藤青汁	83	株式会社フジ
31	株式会社オートクチュール	84	ベストケア株式会社
32	株式会社尾崎設計事務所	85	ベルグアース株式会社
33	花王サニタリープロダクツ愛媛株式会社	86	星企画株式会社
34	株式会社ガリレオコーポレーション	87	株式会社ホテル椿館
35	一般財団法人休暇村協会 休暇村瀬戸内東予	88	株式会社ホテル八千代
36	株式会社協和	89	公益財団法人 松山市男女共同参画推進財団
37	霧の森(株式会社やまびこ)	90	松山市役所
38	社会福祉法人育和会 久万こども園	91	松山赤十字病院(①8/20～8/24)
39	月心グループ 株式会社公益社	92	松山総合開発株式会社 松山全日空ホテル
40	こうち人づくり広域連合①	93	学校法人 松山大学
41	生活協同組合コープえひめ	94	株式会社松山三越
42	医療法人 こぐま小児歯科・歯科	95	株式会社マミーズファミリー
43	株式会社コモテック	96	株式会社マルナカ
44	西条市役所	97	株式会社三好鉄工所
45	NPO法人 西条まちづくり応援団	98	株式会社地域法人 無茶々園
46	佐伯公認会計士事務所	99	医療法人ゆうの森
47	佐川印刷株式会社	100	有限会社ゆうぼく
48	株式会社サニクリーン四国	101	有限会社ラポール
49	自衛隊愛媛地方協力本部	102	株式会社レオパレス21
50	株式会社四国中央キャリア	103	株式会社レディ薬局
51	四国中央市役所 人事課	104	合資会社ワークショップco.松山
52	シブヤ精機株式会社	105	特定非営利活動法人 ワークライフ・コラボ
53	株式会社スイッチカンパニー		